時局講演会

高齢化の進行により日本全体および佐賀県の医療・介護はどのように変わっていくべきか？

高橋　泰 先生

1月20日（金）佐賀市アバンセにて、時局講演会を開催しました。

高橋泰先生（国際医療福祉大学大学院教授）を講師に、17医療機関より56名が参加されました。

以下、参加者からの報告です。

何とも長い標題であるが、要するに人口の高齢化により今どういった医療と介護のニーズが変化するかということである。

二次医療圏のデータベースを二次医療圏ごとに色別して地図上に落とし、日本全体を見ると全国的な傾向が分かり易く示される。

全体を大都市部、地方都市部、過疎地の3つに分けてみるとその特徴が明らかになるので医療と介護の対策が立て易い。

二次医療圏ごとに見ると介護保険のベッド数（老健＋特養）の地域格差は小さく、病院は量・機能ともに地域間の格差は大きい。

医療費の伸びは65才～74才で大きく、介護費は75才を過ぎると急増する。

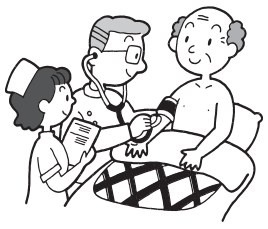
今後の人口動態をみると前期高齢者は2010年で頭打ちとなり、後期高齢者は2025年で頭打ちとなる。頭打ちとなった前期高齢者は1500万人、後期高齢者は200万人となる。一方人口は2010年より減少に転じており、65才未満の人口が減少し、高齢者を支える若年層、働き盛り層が著しく減少する。

医療のニーズは2025年が最大で11・1%増、介護ニーズのピークは49・7%増となる。介護のニーズが高い最重点地域は大都市部及びその周辺地域となる。医療のニーズは高機能病院や過疎対策よりも、地域密着型病床の緊急性が高いとされる。

大都市において入所施設を大量に作るのは困難で、自立型老いと自然死の受け入れなどの価値観の変化が必要で、そのための体制整備が急がれると結ばれた。

大都市のベッドタウンごとに高齢化を迎えることや、土地代が高く新たな入所施設を作るのは確かに困難で、在宅医療、在宅介護が一つの方法であるが、大都市の高齢者は施設の多い地方都市や過疎地域へ早めに移り住むこともう一つの方法かと考えさせられた。

（佐賀市　山口　宏和）



3.11東日本大震災に関するご意見募集中

昨年３月11日に起こった東日本大震災からもうすぐ１年を迎えます。
会員の皆様にご意見を寄せていただく特集を企画いたしました。
協会新聞３月号に掲載予定です。
「３月11日に何を思ったか」「この１年間で考えたこと」
「被災者・被災地のこと」「原発のこと」
など自由なご意見をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

◆ メ切：2月末日　　◆字数：200字～400字程度
◆お名前・医療機関名をご記入の上、FAXまたはＥメールでお送りください（ペンネームも可）。
（お礼に図書カードを送らせていただきます）

送付先　佐賀県保険医協会　FAX：0952-23-5218　E-mail：hoken-i@star.saganet.ne.jp

佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
（三井生命ビル4F）
電話　0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP http://saga-doc.jp
hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料　１部　200円
送料込　年間2,400円
（会員の購読料は会費に含まれています）

協会会員数
医科　635人
歯科　323人
合計　958人
（12月31日現在）

主な記事

・わたしの主張「造られた歴史、造られたデータに思う」……2面
・医科研究会「これからの糖尿病医療」……3面
・第28回福岡国税局との懇談……4～5面
・一口法律相談「生命保険金は遺産に含まれる？」……7面
・経営税務「突然の横柄な税務調査には？」……8面
・労務管理「労災保険に未加入の事業主」……8面

新点数説明会のご案内　会員無料

４月１日からの診療報酬・介護報酬の改定にあたり、下記の通り説明会を開催いたします。
ご案内のチラシ等をお送りしますのでお申し込みください。

3月19日（月） 19:45～
歯科
佐賀市文化会館 イベントホール

☎0952-32-3000
佐賀市日の出1-21-10

3月24日（土） 15:00～
医科（佐賀会場）
佐賀市民会館ホール

☎0952-24-5271
佐賀市水ヶ江1-2-20

3月25日（日） 14:00～
医科（唐津会場）
唐津商工会館5F

☎0955-72-5141
唐津市大名小路1-54

曙

2011年3月11日は世界史に残る日となろう▼技術国日本と尊敬を込めて呼ばれていたわが国で、原発が制御不能となりメルトダウンからメルトスルーを惹き起こしてしまった。地震・津波という天災があったとはいえ、原発事故は全くの人災である。地震国日本で何という粗末な原発行政であった事か▼安全神話は完全に崩れ去った。残ったのは放射能汚染という次世代への相済まぬ負の遺産である。時代遅れの原発から脱却し「自然エネルギーに変革すべき」と運命の女神の采配の様な事故だった▼日本の現代病は、一度決めた事を変えられない事だと言われている。脱原発のために太陽光、水力、風力、地熱、バイオマス発電と新聞一面広告が経産省により出たのは昨年1月20日であった。これがもっと早く実現していれば放射能汚染は防げた。悔やんでも悔やみきれない痛恨の一事だ。故にメガソーラー等には賛成である▼しかし佐賀県は吉野ヶ里遺跡群の中心的場所にメガソーラーを16haにわたり設置する計画を発表。何ともったいない罰当りな事!!ここは、景観を県が守ると約束した地だ。国を欺き、先祖の霊眠る地に鉄骨を打込み公園を台無しにするとは言語道断。北に日本茶の発祥の霊仙寺、横に玉仁さん縁りの鰐大明神。伊勢塚古墳九年庵、櫛田神社に囲まれ平忠盛も治めた地だ。国際的な観光地となり得る国の宝のような所である。この地も公園化した方が経済効果も大であろう。メガソーラーを建てる地は他にたくさんある。

（太田　記代子）